

## イネ科の日本新産帰化植物，ヒトツノコシカニツリ（新称）

*Ventenata dubia* (Leers) Coss. (Gramineae), Newly Introduced to Japan.

木場英久<sup>1)</sup>・勝山輝男<sup>1)</sup>・庄子邦光<sup>2)</sup>

Hidehisa Koba<sup>1)</sup>, Teruo Katsuyama<sup>1)</sup> & Kunimitsu Shoji<sup>2)</sup>

**Abstract.** *Ventenata dubia* (Leers) Coss. is a native of the Central and the Southern Europe and is introduced to North America. The species was collected in Kanagawa Prefecture for the first time in Japan.

**Key words:** *Ventenata dubia*, Kanagawa prefecture, Miyagi prefecture, newly introduced species

イネ科の新産帰化植物が宮城県と神奈川県で採集されたので報告する。この植物は、苞穎が膜質で、小穂は複数の小花を含み、護穎の背からねじれた芒が出ることからカニツリグサ属 *Trisetum* Pers. に近縁な植物であると思われるが、第1小花には護穎背面から出る芒がなく、子房の上部にも毛がなかったのでカニツリグサ属とも、ミサヤマチャヒキ属 *Helictotrichon* Schult とも、オオカニツリ属 *Arrhenatherum* P.Beauv. とも異なり、日本新産の帰化植物であることがわかった。

第2小花以上の小花が熟して脱落したのちも、第1小花は苞穎に包まれて宿存すること、護穎先端が芒状にとがることや、すべての小穂の第1小花に芒がないことや、東京大学総合研究博物館に収蔵されている標本との比較から、*Ventenata dubia* (Leers) Coss. と同定した。*Ventenata* は日本新産の属で、カニツリグサに近縁であり、第1小花が長く花序に残るという明瞭な特徴をもっているため、属と種の和名をヒトツノコシカニツリ属のヒトツノコシカニツリと新称する。以下にヒトツノコシカニツリの形態を記す。

叢生する一年草。稈は粗澁。基部から2-3節目で分枝し、小さな花序を出すことがある。節は黒く、無毛。茎葉は3-4個。葉身は長さ8-9cm、幅約2mmで、線形、向軸面は粗澁、背軸面は平滑。葉鞘は長さ8-14cmで、平滑。葉舌は膜状で、高さ約4mmで、鋭頭。円錐花序は長さ15-25cmで、散開する。花序の枝や中軸は粗澁。花序

の最下段の枝数は4-6個。小穂は2-4小花からなる。苞穎は脈上がざらつき、縁は透明な膜質で、先端は尾状に尖る。第1苞穎は5-7脈で、長さ約7mmで、第1小花より短い。第2苞穎は7-9脈で、長さ約10mm。第1小花では護穎の先端が徐々に細くなり芒状になるが、背面に芒はない。護穎本体の長さは約10mm。第2小花以上の小花では護穎の先端が二つに分かれて芒状になり、それとは別に背面中部から出るねじれた芒がある。すべての小花は両性で、護穎は縁が透明膜質で、基盤に毛が生え、内穎には2竜骨があり、竜骨上に短毛が生える。小軸は無毛。第2小花以上は、熟すと小花の基部と小軸の間で関節して散布されるが、第1小花は苞穎や小穂の柄とともに散布される。葯は長さ約1.5-2.0mm。子房は無毛。

*Ventenata dubia* (Leers) Coss. in Expl. Sci. Algerie 2: 104. (1855). Tutin in Tutin et al., Fl. Europa. 5: 217. (1980). Pignatti, Fl. Italia 3: 553. (1982). Conert in Hegi, Illust. Fl. Mitteleuropa 1: 260 (1987). J.P. Smith in Hickman, Jepson Manual 1302 (1993).

*Avena dubia* Leers in Fl. Herbornensis 41. (1775).

標本：神奈川県横浜市青葉区あざみ野南 Jun. 11, 1998 北川淑子 KPM-NA0124092 (造成地)。神奈川県秦野市曾屋 Jun. 14, 1999 金井和子 KPM-NA0124093 (耕作地の近く)。宮城県仙台市青葉区南吉成 Jul. 5, 2003 庄子邦光 KPM-NA0124094 (カンツバキの植え込みに混生)。

この属は世界に5種があり、ヨーロッパ南部からイランにかけて分布する (Cleyton & Renvoise, 1986)。このうち *Ventenata dubia* は、ヨーロッパの南部と中部に自生し、

<sup>1)</sup> 神奈川県立生命の星・地球博物館  
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499  
Kanagawa Prefectural Museum of Natural History  
499 Iryuda, Odawara, Kanagawa 250-0031, Japan  
木場英久 E-mail: koba@nh.kanagawa-museum.jp

<sup>2)</sup> 〒981-0943 宮城県仙台市青葉区国見 2-2-7  
2-2-7 Kunimi, Aoba, Sendai, Miyagi 981-0943, Japan

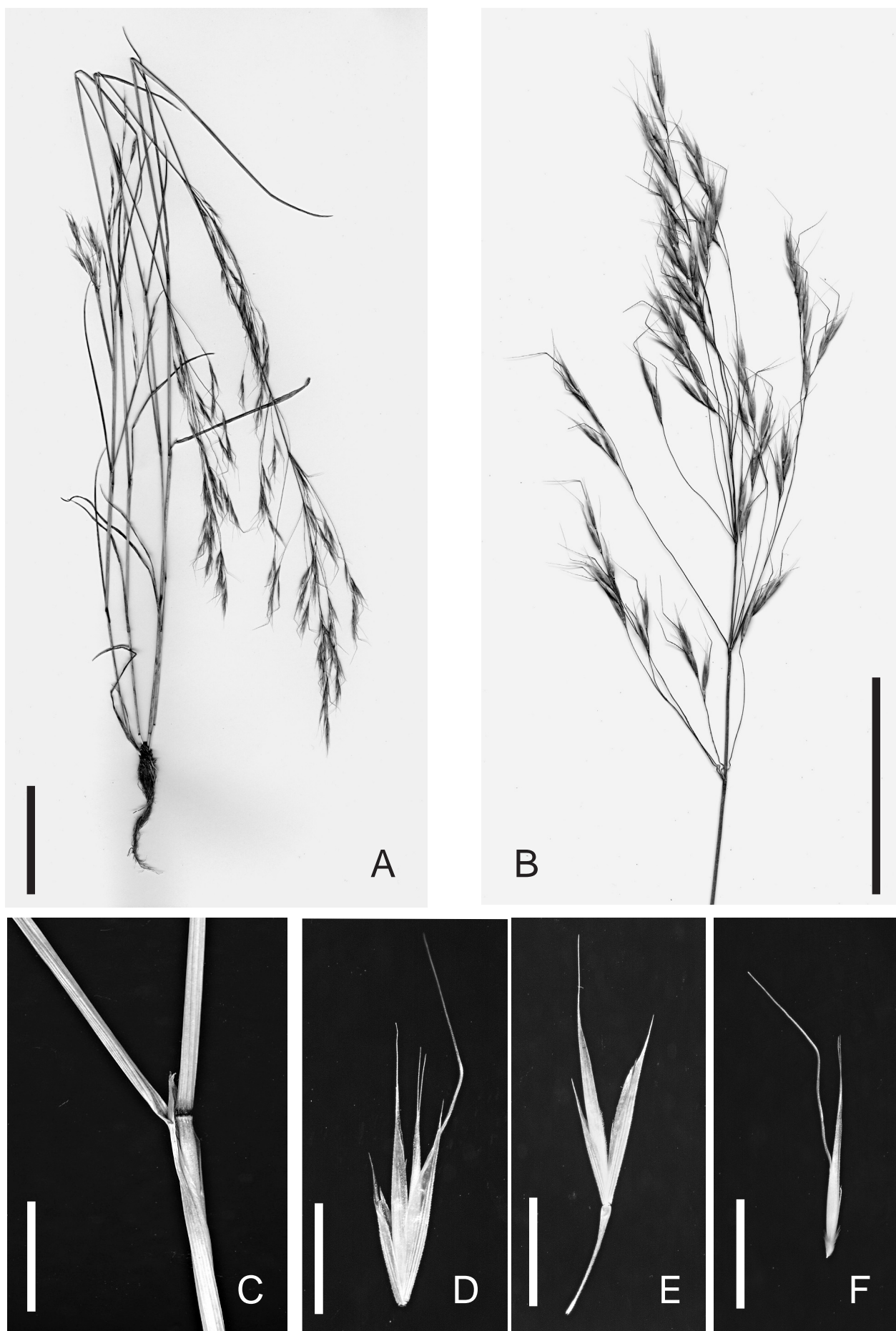


図. *Ventenata dubia* (KPM-NA0124092).

A: 全体, B: 花序, C: 葉舌, D: 小穂, E: 苞穎と第1小花, F: 第二小花. スケールは, AとBが5cm, C~Fが5mm.

北米にも帰化している (Smith, 1993)。1960 年代に初めてアイダホ州でみつかって以後、穀物などに混ざって分布を広げ、アメリカ合衆国ではカリフォルニア州、モンタナ州、ネバダ州、オレゴン州、ユタ州、ワシントン州、ウィスコンシン州に、カナダではオンタリオ州、ケベック州、ブリティッシュコロンビア州に記録があり、現在も分布を拡大している (The Nature Conservancy, 2002)。

日本への帰化の経路は不明であるが、造成地や畑の周辺、街路樹の植え込みの中などの人工的な環境でしか採集されていないことから、なんらかの栽培植物に伴って持ち込まれたものと思われる。また、複数の場所で採集されていることや、北米における繁殖力の高さから考えると、今後、国内にも定着することが予想される。

### 摘 要

木場英久・勝山輝男・庄子邦光, 2005. イネ科の日本新産帰化植物, ヒトツノコシカニツリ (新称). 神奈川県立博物館研究報告 (自然科学), (34): 61-63. (Koba, H., T. Katsuyama & K. Shoji, 2005. *Ventenata dubia* (Leers) Coss. (Gramineae), Newly introduced to Japan. *Bull. Kanagawa prefect. Mus. (Nat. Sci.)*, 34: 61-63.)

*Ventenata dubia* (Leers) Coss. はヨーロッパの中部と南部原産のイネ科植物で、北アメリカに帰化していたが、この種が神奈川県と宮城県で採集された。ヒトツノコシカニツリという和名を新称する。

(受付 2004 年 12 月 28 日; 受理 2005 年 1 月 21 日)

### 謝辞

標本の閲覧を許可していただいた東京大学総合研究博物館の大場秀章博士に謝意を表す。

### 引用文献

- Clayton, W.D & S.A.Renvoize, 1986. *Genera Graminum, Grasses of the World*. 389 pp. Her Majesty's Stationery Office, London.
- Smith, J. P., 1993. *Ventenata*. In Hickman J.C., ed., *The Jepson Manual*, p. 1302. University of California Press, Berkeley.
- The Nature Conservancy, 2002. *Weed Alert Archive* [online] 受信: 木場英久. 2004-12-18. Available from Internet :<<http://tncweeds.ucdavis.edu/alert/alertvent.html>>.